製品安全データシート

新規作成　：1996年10月04日
改訂　　：2013年 6月29日

１．製品及び会社情報

製品名　　：ＳＤＰ－αＯＨ

製造者情報　　会社名　：三菱製紙株式会社
住所　　：〒130-0026　東京都墨田区両国２丁目１０番１４号
担当部門：技術環境部
問い合わせ窓口：イメージング事業部
印刷感材営業部（電話番号：03-5600-1475）

奨励用途及び使用上の制限　：シルバーディジプレートα用プレートプリザーバー

２．危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

物理化学的危険性	：引火性液体	区分３
健康に対する有害性	：眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分２Ａ
	皮膚感作性	区分１
	発がん性	区分２
	特定標的臓器／全身毒性（単回暴露）	区分２（血液）
	特定標的臓器／全身毒性（反復暴露）	区分２（眼、鼻、血液）
環境に対する有害性	水生環境有害性（急性）	区分３
	水生環境有害性（慢性）	区分３

ラベル要素

炎　　感嘆符　健康有害性

注意喚起語　：　警告

危険有害性情報　：　引火性液体
アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
重篤な眼への刺激性
発がんのおそれの疑い
臓器障害のおそれ
長期または反復暴露による臓器障害のおそれ
水生生物に有害
長期的影響により水生生物に有害

注意書き
不浸透性保護手袋、保護眼鏡、保護マスク、保護衣を着用すること。

粉塵またはミストを吸入しないこと。
製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
取扱い後は十分に手を洗浄すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
熱／火花／裸火／高温のような着火源から遠ざけること。
容器を密閉しておくこと。
使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
容器を接地すること／アースをとること。
防爆型の電気機器／換気装置／照明装置を使用すること。
環境への放出を避けること。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

３．組成・成分情報

単一製品・混合物の区別　：　混合物
一般名　：
成分及び含有量

		官報公示整理番号	Cas No.	含有量%
鉱油（アルキルベンゼンC10～11）	＊		64742-94-5	２０－３０
グリセリン		(2)-242	56-81-5	１－１０
ナフタレン	＊	(4)-311	91-20-3	１．７
リン酸	＊	(1)-422	7664-38-2	＜１
水		対象外	7732-18-5	＞５０

＊鉱油	安衛法57条の２	通知対象物質	施行令第18条の２
＊ナフタレン	安衛法57条の２	通知対象物質	施行令第18条の２
	化管法	第２条の２	第１種　No.302
＊リン酸	安衛法57条の２	通知対象物質	施行令第18条の２（但し1%未満）

４．応急処置

吸入した場合　：大量のミストを吸入した場合は直ちに空気の新鮮な場所に移動させ安静にしてください。呼吸が弱かったり、止まっている場合は、衣類を緩め呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行ってください。呼吸していて嘔吐がある場合は、頭を横向けにしてください。体を毛布等で覆い、保温して安静に保ってください。応急措置を施したあと、速やかに医師の診察を受けてください。

皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
皮膚刺激または発疹を生じた場合は、医師の診断／手当てを受けること。
汚染した衣類を再使用する場合には洗濯すること。

目に入った場合　：直ちにきれいな流水で１５分以上洗い、炎症が残っているようでしたら医師の診察を受けてください。洗浄の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄してください。コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄を続けてください。

誤飲した場合　　：水でよく口の中を洗浄し、大量の水を飲ませて、直ちに医師の手当を受けてください。意識があっても無理に吐かせないようにしてください。

５．火災時の措置

消火剤　　：ドライケミカル、炭酸ガス
使ってはならない消火剤：水
特定の消火方法：禁水、灯油の火災と同様の扱いをしてください。
保護具等　　：消火の際は自給式呼吸器具及び完全保護具を着用してください。
風上から消火活動を行ってください。

６．漏出時の措置

人体に対する注意事項：火気厳禁にし、漏出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止してください。保護具（送気マスク、空気呼吸器、保護手袋、ゴーグル型保護眼鏡、保護面、安全帽、長袖保護服、保護長靴など）を必ず着用して回収してください。風上で作業してください。多量の場合は、人を安全に避難させてください。
環境に対する注意事項：火気厳禁にし、漏れた液を集め回収してください。回収後はウエスなどで拭き取ってください。漏出した液体や洗浄に使用した汚染水が河川等に排出され、環境に影響を及ぼさないよう注意してください。
除去方法　　：砂または不燃性吸収剤で吸収し、空容器に回収してください。回収した液は密閉できる容器に入れ廃液処分業者に廃液処分を依頼してください。

７．取扱い及び保管上の注意

取扱い
技術的対策：目や皮膚に接触すると炎症を引き起こすことがありますので適当な保護具（保護眼鏡、保護手袋）を着用し取扱ってください。取扱い場所の近くに、緊急時に洗眼、及び身体洗浄を行うための設備を設置してください。休憩場所には、手洗い、洗顔等の設備を設け、取扱い後には手、顔等をよく洗うようにしてください。
局所排気・全体換気：強制換気による換気を行ってください。
注意事項　：取扱いは十分な換気のもとで行ってください。
暴露または暴露の懸念がある場合は医師の診察／手当てを受けてください。
保管　　：キャップを確実に閉めて涼しい場所に置いてください。
火気厳禁
子供の手の届くところには置かないでください。

８．暴露防止及び保護措置

設備対策：強制換気による換気を行ってください。
管理濃度　安衛法管理濃度　：　未設定。
許容濃度：日本産業衛生学会　　リン酸　1mg/m3
ＡＣＧＩＨ／ＴＷＡ　グリセリンミスト　10mg/m3、リン酸　1mg/m3
ナフタレン　10ppm

保護具　：呼吸器　保護マスク
手　　保護ゴム手袋

目　　保護眼鏡
皮膚及び身体　保護衣

９．物理的及び化学的性質

形状　：液体　　色　：白色乳化半透明
臭い　：石油臭　　ｐＨ（at25℃）：4.5　－　5.5
沸点　：未測定（153-178℃）　　融点：未測定（-50℃以下）
引火点：５０℃以上　　自然発火温度：データなし
燃焼範囲：データなし
蒸気圧：水と同様　　蒸気密度：データなし
比重(at25℃)：１．０－１．１
溶解度：水に可溶　　オクタノール／水分配係数：データなし
分解温度：データなし

１０．安定性及び反応性

安定性：通常の取扱い条件下では安定である。
反応性：強酸化剤と反応する可能性がある。
避けるべき条件：高温、直射日光
混触禁忌物質：強酸化物質
分解による有害性：特になし

１１．有害性情報

急性毒性LD50：実測値はないが、成分から推定した値では2000mg/Kg（ラット経口）以上。
皮膚腐食性・刺激性：
ナフタレン；DFGOT（vol.11, 1998)、EU RAR（2003)、EHC 202（1998）およびATSDR（2003)のウサギの皮膚に適用した試験において軽度な刺激性が認められたとの記述から、区分3とした。
リン酸　；24時間暴露の影響ではあるが、IUCLID（2000)のウサギの皮膚に75-85%溶液を適用した試験において腐食性が認められたとの記述、および0.1N水溶液のｐＨが1.5の強酸であることから、区分１A-１Cとした。
眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性：
ナフタレン；EU RAR（2003)およびATSDR（2003）のウサギの眼に適用した試験において7日以内に回復する軽度な刺激性が認められたとの記述から、区分2Bとした。
リン酸　；皮膚腐食性であることから、区分１とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性：
ナフタレン；皮膚：EU RAR（2003）にモルモットを用いたBuehler testおよびmaximization testにおいて皮膚感作性は認められなかったとの記述があるが、ヒトへの影響としてDFGOT（vol.11, 1998）の皮内試験で皮膚反応が認められた2症例の記述およびナフタレンに対するアレルギーの頻度は0.13%であるとの記述から、区分1とした。
生殖細胞変異原性：情報なし
発がん性：
ナフタレン；ACGIHでA4（ACGIH 7th, 2001）、EPA(1998）でCBD（IRIS, 2005）に分類されているが、IARCではグループ2B（IARC 82, 2002)、EUではカテゴリー3（EU-Annex I, 2005)に分類されていることから、最近の評価文書であるIARCに従い、区分2とし

た。

生殖毒性：情報なし

特定標的臓器・全身毒性－単回暴露：

ナフタレン；ACGIH（7th, 2001）、DFGOT（vol.11, 1998）、EU RAR（2003）、IARC 82（2002）、EHC 202（1998）、IRIS（1998）、CERIハザードデータ集（1997）、NTP TR500（2000）、ATSDR（2003）およびACGIH（7th, 2001）のヒトで溶血性貧血が認められたとの記述から、区分1（血液）とした。また、ACGIH（7th, 2001）、DFGOT（vol.11, 1998）およびEHC 202（1998）のウサギを用いた単回経口投与試験において白内障発現が区分2のガイダンス値範囲の用量で認められたとの記述から、区分2（眼）とした。

特定標的臓器・全身毒性－反復暴露：

ナフタレン；DFGOT（vol.11, 1998）およびEU RAR（2003）のヒトで低濃度の反復吸入暴露により溶血性貧血が認められたとの記述、ACGIH（7th, 2001）、DFGOT（vol.11, 1998）、EU RAR（2003）、IRIS（1998）、CERIハザードデータ集（1997）、NTP TR500（2000）およびATSDR（2003）の職業暴露例において水晶体の混濁が認められたとの記述、ならびにEU RAR（2003）のラットを用いた吸入暴露試験においてolfactory epitheliumの変化が区分1のガイダンス値範囲で認められたとの記述から、区分1（血液、眼、鼻）とした。

吸引性呼吸器有害性：情報なし

１２．環境影響情報

水生環境有害性（急性）：

ナフタレン；魚類（ニジマス）の96時間LC50=0.11mg/L（CERIハザードデータ集、1997）から区分1とした。

水生環境有害性（慢性）：

ナフタレン；急性毒性が区分1、生物蓄積性が低いものの（BCF=168（既存化学物質安全性点検データ））、急速分解性がない（BODによる分解度：2%（既存化学物質安全性点検データ））ことから、区分1とした。

生態毒性：データなし

残留性・分解性：データなし

生体蓄積性：データなし

１３．廃棄上の注意

水質汚濁防止法（生活環境項目）及び下水道法（下水の排除の制限）に該当しますので、河川、下水等にそのまま排出しないでください。引火性のある溶液ですので下水などに捨てることは出来ません。

本製品を廃棄する場合は、「特別管理産業廃棄物（廃油）」に該当しますので、廃液を処分依頼する時は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び「都道府県条例」に従い、当該廃棄物を処理する産業廃棄物処理業として、都道府県知事の認可を受けた産業廃棄物処理業者に、運搬、処理を委託してください。

汚染容器及び包材：内容物を完全に除去した後に処分してください。

１４．輸送上の注意

自動車、鉄道輸送は消防法による。

船舶輸送は危規則による。

国連番号：１９９３
国連分類：引火性物質（引火点＞23℃、＜61℃）
容器等級：Ⅲ

１５．適用法令

安衛法：通知対象物質　　鉱油、ナフタレン
　　有規則　第三種石油溶剤（石油ナフサ（鉱油））
化管法：１種　No.302　ナフタレン
毒劇法：非該当
危規則：引火性液体類
消防法：危険物第４類第２石油類（非水溶性）

１６．その他の情報（引用文献等）

独立行政法人　製品評価基盤機構　「化学物質総合情報提供システム（CHRIP）」
　　「GHS分類対象物質一覧」

本シートの内容は発行時における知見に基づいて作成したものです。作成の目的は製品の安全に関わる情報を提供するものであって、性能・品質を保証するものではありません。記載事項は今後の知見により改訂されることもあります。記載内容の内、含有量・物理的及び化学的性質などの値は保証値ではありません。注意事項は通常の取扱い対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点をご考慮願います。危険・有害性の情報は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意してください。